

イエスのことば

聖書フォーラム みやま集会

2020年12月5日

出典：“The Life of The Messiah vol.2” Arnord G. Fruchtenbaum, TH.M.,PH.D.

1

イエスのことば（第9回） P.2

わたしはあなたがたを、自分たちが労苦したのではないものを刈り入れるために遣わしました。ほかの者たちが労苦し、あなたがたがその労苦の実にあずかっているのです。（ヨハネ4：28）

この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。（マタイ4：17）

2

文脈の確認

P.1

1. メシアはユダヤ人の王として来る
2. 神がイエスをその王であると認めた出来事 3つ
 1. ヨハネから洗礼を受けたときに神の声が天から響いた
 2. 荒野でサタンの誘惑を受けてこれを退けた
 3. 先駆者ヨハネがイエスをメシアであると証言した
3. 第三の出来事に続いて、初期の弟子5人
4. 第三の出来事から7日目、最初の奇跡

3

文脈の確認

5. カペナウムに、母や弟たちと家族旅行
6. 春の過越の祭りが近づいた
7. 5人の弟子たちを連れて、エルサレムへ
 1. 神殿域で商売人たちを追い出した。事実上のメシア宣言
 2. 祭りの期間中、多くのしるしを人々の前で行った
8. ユダヤ教パリサイ派の有力者、ニコデモがイエスを訪問した

4

文脈の確認

9. 先駆者ヨハネが、ペレアで逮捕収監される
10. イエスは、ユダヤを去って、ガリラヤへ。ペレアを通るのを避けて、サマリア経由で。
前回は、サマリアの女性との対話

本日は、サマリアの女性との対話のあと、続いて弟子たちに語られたことば。そしてもう一つ、ガリラヤに戻ったあと、宣教開始のときのことば

5

本日のアウトライン

P.2

- A) サマリアでの受容 (ヨハネ4：27～42)
- B) ガリラヤでの受容 (ヨハネ4：43～45)
- C) 宣教開始 (マタイ4：12～17)

6

A) サマリアでの受容（ヨハネ4章） P. 2

1. 27節 弟子たちが町から戻ってきた
2. 28～30節 サマリアの女は町へ行き、証言
3. 31～38節 その間、弟子たちとイエスの対話

7

A-3) 弟子たちとの対話 P. 2

- ① 31節 弟子たちはイエスに食べ物を差し出す
- ② 32～34節 イエスは霊的な食べ物について語る
- ③ 35～36節 「目をあげて畑を見なさい」

このときイエスは、こちらに来ている町の人々を見ながら、弟子たちに語っておられる。「すでに刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに至る実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです」

ここでは、**蒔く者**=サマリアの女、**刈る者**=イエス

8

A-3) 弟子たちとの対話

P. 2

- ④ 37節 伝道の原則
「一人が種を蒔き、ほかの者が刈り入れる」
- ⑤ 38節 わたしはあなたがたを、自分たちが労苦した
のではないものを刈り入れるために遣わしました。
ほかの者たちが労苦し、あなたがたがその実にあず
かっているのです」

ほかの者たち・・・先駆者ヨハネ、旧約の預言者たち

あなたがた・・・イエスの弟子たち

その実にあずかっている・・・ヨハネ3：22～26、4：1～2

9

A-4) サマリアでの受容

P. 3

ヨハネ4：39～42

町の人々がイエスをメシアとして信じた

女が証言して、種を蒔き、

町の人々はイエスのもとに来た

そしてイエスが刈り入れをした

10

B) ガリラヤでの受容

P. 3

1. 43節 サマリアに2日滞在→ガリラヤへ
2. 44節 故郷のナザレでは受け容れられないと語る → 宣教の拠点のカペナウムに
3. 45節 ガリラヤの人々は、イエスを歓迎した。過越の祭りのときにエルサレムでイエスあした奇跡を見ていたから。

11

B) 【補足】 ナザレでの拒否 P. 3

1. 最初の拒否 ルカ4：16～31
2. 最終的な拒否 マタイ13：54～58、マルコ6：1～6

故郷での拒否は、ユダヤ人全体からの拒否につながっていく。ユダヤ人全体からの拒否も、段階的に進んだ。最初の拒否は指導者層から、そして弟子集団の中からも、最終的には群衆レベルで

12

C) 宣教開始

P. 3

1. 12節 ヨハネの投獄を聞いて→ユダヤからガリラヤに退く
2. 12節と13節の間に、サマリアでの受容
3. 13～16節 故郷のナザレを離れ、ガリラヤ湖畔の町カペナウムに来て住む
4. 17節 宣教開始

13

C-4 宣教開始 ①

P. 3

この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。

このことばの意味について説明なし。人々からの質問もない。共通の理解がある

旧約預言の中心テーマは、神の国

そして、その王がメシア

14

C-4 宣教開始 ②

P. 3

先駆者ヨハネの宣教のことばと同じ（マタイ3：1～2）

そのときの人々の反応は、3：5～6「自分の罪を告白し」

ユダヤ人の指導者層に対しては、3：7～12

- ・「われわれの父はアブラハムだ」と心の中で思ってはならない
- ・**麦**（信者）を集めて**倉**に納め・・・倉は、メシアの王国
- ・**殻**（不信者）を**消えない火**で焼き尽くす・・・消えない火は、永遠の滅び

15

C-4 宣教開始 ③

P. 4

マルコ1：14～15

ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」

- ・神の福音
- ・時が満ち、神の国が近づいた
- ・悔い改めて神の福音を信じなさい

16

C-4 宣教開始 ④

P. 4

ルカ4：14～15

イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。するとその評判が周辺一帯に広まった。イエスは彼らの会堂で教え、すべての人に称賛された。

17

C-5 イエスの宣教内容

P. 4

- ① 内容は二つ 悔い改めよ & 神の国が近づいた
- ② ルカ4：43では、一言で「神の国の福音」
- ③ マタイはユダヤ人向け **神**の国→**天**の国
- ④ 神の国 = メシアの王国
- ⑤ **福音とは良き知らせ** 王なるメシアが現れた
- ⑥ 悔い改めよ 考えを変えて罪びとであることを認めよ
× ユダヤ人であれば全員が神の国に入れる

18

C-5⑦ モーセの律法の目的 P.5

モーセの律法を持つだけで義人になるのではない

- 律法による義 = それを完全に守ること
- それができる人は、誰もいない
- 律法には罪をカバーする犠牲制度

律法は罪を教える養育係

- 律法を持つだけで誇るの、考え違い

19

C-5⑧ 悔い改めるとは P.5

自分の何か（出自や行い）を誇るのではなく、
罪びとであることを認め、
神の前にへりくだること

20

詩篇32：5～7

私は自分の罪をあなたに知らせ
自分の咎を隠しませんでした。

私は言いました。

「私の背きを主に告白しよう」と。

すると あなたは私の罪のとがめを
赦してくださいました。

21

詩篇32：5～7

それゆえ 敬虔な人はみな祈ります。

あなたに向かって あなたがおられるうちに。

大水は濁流となっても 彼のところに届きません。

あなたは私の隠れ場。

あなたは苦しみから私を守り

救いの歓声で 私を取り囲んでくださいます。

22